

# 公立大学法人 中期目標期間業務実績評価書

(平成30年4月1日～令和6年3月31日)

令和6年8月

福岡県公立大学法人評価委員会



# 目 次

中期目標期間評価の考え方	-----	1 ページ
<b>各法人の評価</b>		
<b>1 公立大学法人九州歯科大学</b>		
(1) 全体評価	-----	3 ページ
(2) 項目別評価	-----	5 ページ
<b>2 公立大学法人福岡女子大学</b>		
(1) 全体評価	-----	10 ページ
(2) 項目別評価	-----	12 ページ
<b>3 公立大学法人福岡県立大学</b>		
(1) 全体評価	-----	17 ページ
(2) 項目別評価	-----	19 ページ



## 中期目標期間評価の考え方

### 1 中期目標期間評価の対象期間

平成30年4月1日から令和6年3月31日までの6年間

### 2 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）ごとに、中期目標の達成状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

- 5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
- 4：中期目標の達成状況が良好である。
- 3：中期目標の達成状況がおおむね良好である。
- 2：中期目標の達成状況が不十分である。
- 1：中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。

### 3 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標の達成状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。



# 公立大学法人九州歯科大学

## I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

令和5年度で6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（教育）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

九州歯科大学は、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育を行うとともに、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育に加え、地域の中核病院等での医科歯科連携による地域包括ケアシステム構築や成人歯周病予防の取組を幅広く展開するなど地域貢献にも注力した。第3期中期目標期間中は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、遠隔授業も柔軟に組み合わせて学生の学修機会を確保するとともに、感染拡大防止対策を行ったうえで大学の特色である医科歯科連携実習も継続するなど、教育研究の維持向上に取り組んだ。

特に、理事長の強いリーダーシップにより、卒業目標の達成に向けて学修成果を明示する「アウトカム基盤型教育」の実現に向けた教育改革を推進している点はきわめて優れており、ルーブリックを活用した学修評価を実質化させることで、一層の成果を上げることが大いに期待される。加えて、先進的シミュレーター導入による臨床教育の充実などの成果をあげた点もきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「九州歯科大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の中期目標期間の業務実績評価については、全体としては達成状況が良好であると認められる。

歯科口腔保健の現場において、高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が大きな課題となる中、生活の質の向上や全身疾患の予防に繋がる「歯と口の健康づくり」のニーズが高まっている。地域の医療従事者等との緊密な連携の下、学童期から成人期、高齢者に至るまでのライフステージに応じた口腔ケア、歯周病の予防や治療、包括的な歯科保健医療体制の構築など、地域ニーズへの適切な対応が求められる。

18歳人口が減少する中、公立大学は一層の責任感を持って地域社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組む必要がある。令和6年度からの第4期中期目標期間においては、公立大学法人九州歯科大学が、新理事長のリーダーシップの下、内部質保証体制を機能させながら、これまでの特色ある取組の実績を基盤に、その教育、研究、地域貢献活動の更なる進化、発展を実現し、高度な歯科医療人材を育成することで、社会から高く評価される大学となることを期待する。



## Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や充実した教育を推進するための積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成（アウトカム基盤型教育の推進）
  - ・初年次教育を充実させるため、シラバスの改訂を行うとともに、試験結果に基づき個別の学習支援を実施した。
  - ・実践的な歯科医療人を育成するため、モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえ、診療参加型の臨床実習を展開するとともに、総合病院と連携し、医科歯科連携実習を多く実施した。
  - ・スチューデント・デンティスト認定制度の実施体制を整備し、臨床実習前の適正な評価を図るとともに、臨床技能の向上のため、他に先駆けて導入したデジタル歯科用シミュレーターによる実習を充実させ、歯科教育におけるDXの活用を実践した。
  - ・学生の学力向上のため、コロナ禍においても評価基準を明確にするなどして遠隔授業を行うとともに、感染症対策を講じた臨床実習を適切に行った。
  - ・学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、歯科医師国家試験新卒合格率（対出願者数）が高水準であったほか、歯科衛生士国家試験合格率も高水準を維持した。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
  - ・評価の観点と基準を示したうえで、学生の学びの達成度を適切に評価するため、ルーブリック評価法を導入するとともに、学生の研究活動の質的向上に繋げるため、学位の申請要件など学位授与基準を見直し、大学院の教育システムを改善した。
- (3) 教職員の教育力向上
  - ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）開催後に複数回のアンケートを実施して研修効果を検証したほか、学生による授業評価での指摘を教員にフィードバックした。

- ・図書館及び食堂にラーニングcommonsを整備し、グループ学習への転換など教育方法を工夫するとともに、個人業績評価で教育業績の低い教員に対して、職位に応じた教育力向上プランを提示した。

(4) 意欲のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義等の高大連携や高校訪問、WEBオープンキャンパスやオンライン進学相談会を行うとともに、学生アンバサダー組織を創設し、広報誌Platysを活用した広報活動を充実させた。

(5) 学生の学修及び生活支援

- ・教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携し、学生からの健康面、精神面、学習面の相談等に対応するとともに、新入生の助言班活動や初年次ガイダンスを通じて、学生の問題や悩みを早期に把握し、学生生活を円滑に送れるよう支援するなど、きめ細かな対応を行った。

(6) キャリア支援

- ・就職支援を充実させるため、キャリア支援クラウドサービスを利用した就職情報の一元化やオンライン面接ブースの設置などを行った。また、多様なキャリアパスに結びつくインターンシップ等の活動を支援するため、キャリアデザインに関する科目を開講した。

## 2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域の中核病院等との連携を強化し、地域包括ケアシステムにおける医科歯科連携や多職種連携を目指した歯科保健医療体制の構築に資する研究を展開した。
- ・特色ある研究を推進するため、積極的に外部研究資金の獲得に努めた。

- ・成人歯周病検診を幅広く展開するため、企業等との連携により大規模な歯周病リスク検査を実施するなど、歯周病予防と全身疾患の関連に係る研究を行った。

### 3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・平成30年度に「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、歯科医師、歯科衛生士を対象とした摂食嚥下障がい等に関する実践的教育を行うとともに、高齢者の摂食支援や医療的ケア児支援に関するセミナーを開催したほか、開業医からの相談にオンラインで対応した。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、医科歯科連携を充実させるとともに、成人歯周病予防の取組を幅広く展開するため、地域の経済団体等と連携し、事業所検診に併せた歯周病検査事業や、歯周病検査キットを用いた郵送検診事業を実施した。
- ・海外大学との交流を推進するため、学術交流協定に基づき、短期留学生の受入れや海外短期派遣プログラムなどに取り組むとともに、コロナ禍においてもオンライン国際交流プログラムを実施した。

### 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学長裁量経費を確保するなど戦略的な大学運営に取り組んだほか、教職員の能力開発を推進するため、研修をオンデマンド方式で実施した。また、教職員の健康管理体制を整備する一環として健康管理センターを設置し、担当保健師を配置した。
- ・附属病院の組織体制を整備し、包括歯科診療の拡充や多職種連携を推進するとともに、臨床教育活動を充実させるため、電子カルテシステムと連携した治療計画作成支援システムを構築し、実症例を用いた治療計画の立案をデジタルアーカイブシステムに組み込み運用できるようにした。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務内容の改善については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげた。
- ・電子カルテシステムから得られるデータ解析を活用した病院経営管理のほか、学内施設や資産を効率的に運用した。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・教職員、学生及び卒業生に対するアンケート結果や外部評価を、教育の改善や大学の方針決定に効果的に反映するため、内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を構築した。
- ・大学ホームページや広報誌の充実を図り、教育研究情報を適切に公開した。



## 公立大学法人福岡女子大学

### I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

令和5年度で6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目中2項目（教育、地域貢献及び国際交流）について「達成状況が非常に優れている」、4項目（研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

福岡女子大学は、クォーター制への移行に伴い文理統合科目やリーダーシップ開発系科目など特色あるカリキュラムを導入した。また、教育の場としての寮活動の充実、感性教育の実施、女性のキャリア形成のための教育プログラム等、様々なリーダーシップ育成のための教育を実施している。第3期中期目標期間中は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたが、遠隔授業も柔軟に組み合わせることで学生の学修機会を確保し、また感染拡大防止対策を行ったうえで全寮制教育を維持するとともに、海外大学との行き来が制限される中、オンラインによる教職員及び学生の国際交流を推進するなど、教育研究の維持向上に取り組んだ。

特に、平成30年度のクォーター制導入直後から、教職協働の学内プロジェクト組織も活用して教育効果等を検証・改善し、次代の女性リーダー育成のためのカリキュラム改定を実現した点や、社会人女性のための高品質のキャリアアップ・プログラムを実施し成果をあげた点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「福岡女子大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の中期目標期間の業務実績評価については、全体としては達成状況が良好であると

認められる。

グローバル化の進展に伴い、社会経済の状況が大きく変化する中、活力ある地域社会を築き、持続的に成長、発展していくためには、国際的な感覚や幅広い視野に加え、様々な主体の力を結び付けて協働することができる女性リーダーの育成が求められている。

18歳人口が減少する中、公立大学は一層の責任感を持って地域社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組む必要がある。令和6年度からの第4期中期目標期間においては、公立大学法人福岡女子大学が、理事長のリーダーシップの下、内部質保証体制を強化し、国際貢献、感性教育、文理統合教育などの特色ある取組の更なる実質化・高度化を実現することで、次代の女性リーダーを育成し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

## Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や充実した教育を推進するための積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

#### (1) 学士課程

- ・平成30年度からクォーター制を導入し、教育効果を学生アンケートやファカルティ・ディベロップメント（FD）等により検証し、改善するとともに、幅広い学びを提供するための文理統合科目や、大学の教育理念を具現化するためのリーダーシップ開発系科目を重視した新たなカリキュラム（令和4年度入学生から適用）を完成させた。
- ・学術英語プログラムや課外補習講座を充実させ、学生の総合的な英語力を向上させるとともに、英語教育を「学術・キャリア英語プログラム」に再構築し、2年間の英語集中学習と専門教育を連動させる教育を導入した。
- ・女性リーダー育成教育を推進するため、カリキュラムにおける女性リーダー育成関連科目を充実させるとともに、学内委員会に学生を参加させ、自らのリーダーシップへの気づきを促し、その成長を発信する機会を設けた。
- ・国際性豊かな学習環境を充実させるため、交換留学、語学研修、体験学習等、学生の海外派遣や留学生の受入れに力を入れるとともに、コロナ禍においても協定校等が実施するオンライン研修やセミナーに多くの学生を参加させた。
- ・食・健康学科において、専門教育を充実させるとともに、管理栄養士国家試験の合格率100%を維持した。
- ・県庁舎内にある県民レストランのヘルシーメニューの開発・提供に、食・健康学科の学生を参画させるなど、大学で学んだ知識を発揮する機会を設けて、学生の学びに繋がった。

#### (2) 大学院課程

- ・専門的能力を養成するため、人文社会科学研究科及び人間環境科学研究科の教育研究を充実させるとともに、学位論文審査における評価システムを見直した。



(3) 教育活動の活性化

- ・全職員参加型のFDに加え、各部署における自発的なFDを推進するとともに、学修ポートフォリオの改善を進めた。

(4) 意欲ある学生の確保

- ・海外協定高校からの学生の受入れ、高校単位でのキャンパスビジットなど、工夫した募集広報活動を行うとともに、コロナ禍においても人数等を限定した来校型オープンキャンパスやオンラインによる高校教員向けの大学概要説明会を実施した。

(5) 学修支援・学生生活支援

- ・学修ポートフォリオを改修し、積極的活用を促すとともに、ラーニングコモンズにおいて学生主体の学習イベント等を多数開催したほか、教職員が連携して学生のメンタルヘルスケア支援や学修支援を行った。

(6) キャリア形成の支援

- ・キャリア教育をカリキュラムにおける「リーダーシップ開発系」に位置付けたほか、キャリア支援部会を設置するなど、教職協働による就職支援体制を整備した。

## 2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「女性リーダーシップセンター」及び「国際フードスタディセンター」を設立し、大学の知的資源を活用して、男女共同参画、健康社会づくりなど社会的重要な課題に対応する研究をはじめとした総合的な取組を開始した。
- ・国際的な研究交流を推進するため、「ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡」の枠組みを活用した研究交流を推進するとともに、コンソーシアム外の大学との共同研究も実現させた。

### 3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や地域貢献に関する積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 社会人女性のキャリア支援のための「女性トップリーダー育成研修」や「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」、「女性人材育成のためのネットワーク形成事業」、再就職支援のための「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」を実施し、社会人教育を充実させるとともに、地域社会との連携を推進した。
- ・ 出前講義やイングリッシュ・キャンプ等の高校との教育連携の推進や、生涯学習カレッジの開講、地域コミュニティとの連携事業等を実施するとともに、福岡女子大学美術館や図書館で様々な企画展を行うなど、大学の知的資源を地域に還元した。
- ・ 海外11大学との新たな交流協定の締結等、海外大学との交流を充実させるとともに、留学説明会や留学経験者による相談会等により、在校生の海外志向を高め、留学生の短期受入れ、学生の海外派遣に繋げた。コロナ禍においてもリスクマネジメントを行うとともに、オンラインを活用した交流プログラムを実施した。

### 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 大学の円滑な運営の実現や多様なニーズに対応するため、教職協働組織（センター）への再編や、教員対象研修会への職員の積極

的参加等、教職協働の観点からの取組を強化したほか、トランスジェンダー学生受入れに関する検討委員会を設置して検討を進めるとともに、学生や教職員の理解を促進するため、研修会を実施した。

- ・教職員の多様な視点によるユニークな提案を募集する「教育活動活性化提案事業」を実施した。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務内容の改善については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・教員に対する外部資金獲得セミナーの開催や科研費獲得者によるピア・レビュー等、外部資金獲得のための支援を行い、一定の収入実績をあげた。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価委員会を中心に内部質保証体制を整備した。
- ・大学ホームページ等により教育研究情報を適切に公開したほか、大学紹介動画やブログの掲載、広報誌での新企画等、高校生を意識した広報を実施するとともに、マスコミや企業へも積極的にアピールするなど、大学ブランドの浸透に力を入れた。また、100周年のプレイベントや100周年を素材とした広報誌を作成した。



## 公立大学法人福岡県立大学

### I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

令和5年度で6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

福岡県立大学は、「学生ファースト」の理念を掲げる公立大学として、専門的職業人としての能力の育成はもとより、社会の変化に対応できる潜在能力や汎用力を身に付けるための全学横断型教育プログラムを充実させた。また、不登校・ひきこもりサポートセンターの運営や看護師の特定行為研修の実施など地域の課題解決に貢献する活動を積極的に展開し、成果をあげた。第3期中期目標期間中は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、遠隔授業も柔軟に組み合わせて学生の学修機会を確保し、またシミュレーションルーム等を整備し学内実習を充実させるとともに、eラーニングやオンラインによる国際交流を進めるなど、教育研究の維持向上に取り組んだ。

特に、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談対応や学生の子どもサポート活動、学生ボランティアによる学習支援など大学が一体となった取組に加え、不登校児童生徒の社会的自立支援に向けた、大学と学校教育現場とのネットワーク構築などの顕著な成果をあげた点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「福岡県立大学は、大学教育質保証・評価センターが定める大学評価基準を満たしている」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の中期目標期間の業務実績評価については、全体としては達成状況が良好であると認められる。

少子高齢化の進行、地域の繋がり希薄化や価値観の多様化により、地域住民が抱える課題や福祉ニーズが複雑化・複合化している状況の中、保健・医療・福祉を中心とした幅広い分野で、地域づくりや社会づくりのため中核となって活躍することができる人材の育成や、地域における知の拠点としての地域と連携した取組が、ますます重要となっている。

18歳人口が減少する中、公立大学は一層の責任感を持って地域社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組む必要がある。令和6年度からの第4期中期目標期間においては、公立大学法人福岡県立大学が、理事長のリーダーシップの下、内部質保証体制を機能させながら、全学横断型教育プログラムや地域貢献活動をはじめとする特色ある取組の更なる実質化・高度化を実現することで、地域社会の中核となって活躍する人材を育成し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

## Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
  - ・福祉社会における多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成を目指すなど、特色ある教育を展開し、保健・医療・福祉の各分野の専門的知識と他の専門職との協働について体系的に学ぶ「多職種連携プログラム」や「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付を開始した。
  - ・教養教育を充実させるため、導入教育科目の改善を実施、教養演習テキストを改訂するとともに、コロナ禍におけるオンラインによる遠隔授業や英語の習熟度別クラスの編成により、学習の基盤づくりを強化した。
  - ・人間社会学部において、全学横断型教育プログラムの履修科目を充実させ、履修要件を満たした学生に学修証明書を交付したほか、令和4年度に高等学校教諭一種免許状（情報）の教職課程を新たに設置した。
  - ・看護学部において、看護技術を強化するため、履修科目の充実やOSCE（客観的臨床能力試験）の実施、ケアリング・アイランド大学コンソーシアムでの共同授業を実施した。また、実習教育を充実させるため、学内の演習用施設を整備・活用した。
  - ・看護師、保健師、精神保健福祉士の各種国家試験合格率について、高水準を維持した。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
  - ・大学院生を対象とした満足度調査や座談会を実施し、学生の意見を積極的に取り入れた。また、大学院教育の充実に向けて、シラバス様式の全面改訂やメディア授業科目の設置を推進し、各カリキュラム・科目の見直し・改善を継続して行った。
- (3) 教育活動の活性化
  - ・教員を対象としたセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントの推進を通して、アクティブ・ラーニングを充実させたほか、アセスメント・プランの指標に基づき、学科ごとに「学位プログラムDプレビュー」を作成した。

(4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・オンラインと対面によるオープンキャンパスや個別相談の開催、高大連携の取組など、意欲ある学生の確保のために様々な方策を講じた。
- ・多様な入学者選抜試験の実施とその検証・改善を実施し、社会的養護等を必要とする者を対象とする学校推薦型選抜試験を導入した。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・コロナ禍において e ラーニングシステムを積極的に活用し、e ラーニングコース開設数を大幅に増加させたほか、学修、学生支援体制を充実させるため、学生支援の窓口を一本化するための「学生総合支援センター」を開設した。
- ・寄附金を活用した特別奨学金制度を新設し、経済的理由により修学が困難な学生を支援した。

(6) キャリア支援

- ・キャリアマネジメント関連科目やインターンシップ実施体制の充実等、キャリア教育を強化するとともに、就職支援システムを導入し学生が利用しやすい環境を構築するなど、教職協働体制の下、きめ細かなキャリア支援を実施し、就職率について高水準を維持した。

## 2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において組織体制を見直し、学際的研究プロジェクトを推進するとともに、地元自治体と連携協定を締結し、地域の課題解決に向けた共同研究を行った。令和5年度からは、福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究事業による国保データベースシステムの研究を開始した。
- ・科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究資金の獲得に努めた。



### 3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や福岡県の行政課題の解決に貢献する取組、中期計画に掲げる実施内容以外にも地域貢献に関する積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師・社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象とした研修会を継続して実施するとともに、看護師の特定行為研修事業を開始するなど、地域ニーズに対応したりカレント教育を実施した。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、不登校やその支援に関する相談、キャンパス・スクール事業等を実施したことに加え、不登校児童生徒の社会的自立支援に向けて大学と学校教育現場とのネットワークを構築し、新たな不登校を減少させるための不登校情報の分析支援の取組を実施するなど、不登校・ひきこもり対策に優れた実績を上げた。  
また、学生が、不登校・ひきこもりサポートセンターや地域の補充学習の場に学習ボランティアとして参加できるよう、学生に対し市町村からのボランティア依頼情報を提供するなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援した。
- ・海外の交流協定締結校との教員交流や短期研修プログラム（派遣）などを実施するとともに、コロナ禍においても国際交流を進めるべく、協定校とオンライン交流イベントを行った。
- ・学生・教職員と地域の教育関係者等を対象に、新型コロナウイルスの大学拠点接種を行ったほか、大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として県に貸し出した。

### 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師を対象とした特定行為研修を実施するための研修室の整備や、学内実習を充実させるためのシミュレーションルームを確保した。また、限られた学内資源を有効活用するため、各種証明窓口、就職相談窓口、奨学金受付等窓口を部署移設により一本化した。
- ・業務の効率化を推進するため、インターネット出願システム及び電子シラバスを導入するとともに、入学検定料の収納業務、遠隔授業導入に際してのITに関する相談対応業務等の外部委託を行った。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務内容の改善については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部資金の積極的な確保を支援するため、科学研究助成事業に関する研修会の実施後に、当該研修会の動画を配信して教員がいつでも応募方法等を確認できる体制を作った。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・内部質保証システムを維持・向上させるため、「学生ファースト」の理念の下、内部質保証体制を整備し、学生の意見を把握する

などして、教育の改善を進めるとともに、全学での取組実施を目指し、大学改革セミナーの開催を通してP D C Aサイクルの向上を周知した。

- 大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開した。